ごあいさつ

代表取締役社長　小畑　英明

日新電機はその前身である日新工業社が設立された時を創業と呼んでおり、この時から数えると今年で102年の歴史を積み上げたことになります。日新工業社は、東京工業学校（現・東京工業大学）で学んだ後、京都帝国大学で電気関係の研究をしていた富澤信が自らの家宅を処分して資金をつくり、京都市内に設立した電気計器や配電盤、遮断機などを製造販売する会社でした。時あたかも京都で本格的な発電事業が始まり、電気の時代がまさに羽ばたこうとする時でした。その７年後、事業の拡大に向けた資金調達のため株式会社に改組し社名も日新電機株式会社としました。この時を私たちは日新電機の創立としており、この創立から数えると今年で95年目となります。この間、自社での製品開発に加えて、住友電気工業株式会社から電力用コンデンサの事業移管を受けたり、欧米の電機メーカーからの技術導入を進めるなどして電力機器の事業を拡大してきました。また、得意とするプラズマ技術や高電圧技術にハイボルテージ・エンジニアリング社から導入した技術を融合し電子線照射装置や半導体製造用のイオン注入装置を事業化し、電力機器事業とビーム・真空応用事業の二つのセグメントからなる事業構造を構築して今日に至っています。

このように、日新電機は明治から大正にかけての時代に、今でいう大学発のベンチャー企業として事業のスタートを切ったのであります。従って、自らの技術を大事にしながらそれを何とか事業にしていこうとする起業家精神を伝統的に受け継いでいる会社であると思っています。あわせて、他社の技術を前向きに受け入れ、それと自らの技術を融合し新たな事業を起こしていく寛容さと咀嚼力を身上とする企業文化を持った会社でもあると思っています。こうした伝統と企業文化は、中国進出にあたって現地の国有企業と合弁企業を設立し、十数年間現地パートナーとよく協調しながら利益のあがる会社に育ててきたことにも遺憾なく発揮されました。私たちのこうした企業文化は、これからも新技術や新製品を開発し、新事業を立ち上げていくうえでの極めて重要なバックボーンであり、こうした企業文化をさらに力強く育て、私たちのDNAとして次代の人たちに引き継いでいかなければならないと思っています。

リーマンショック以降、太陽光発電やスマートグリッドなどの新エネルギー･環境に関するニーズや市場が急速に形成されてきました。そして、昨年おきた東日本大震災と原発事故という国難とも云うべき危機によって、こうした動きは益々強く切実な社会ニーズとなっています。さらに新興国においても電力インフラ構築のニーズに加え、新エネルギー･環境のニーズが急速に立ち上がっています。こうしたグローバルに広がる新たな潮流の中で高電圧・電力品質安定化・系統安定化等の技術を有する私たち日新電機グループの果たすべき役割はますます大きくなってくると考えています。
私たちはこれからも、創業以来100年を越えて育んできた伝統と企業文化を大切にしながら、社会のニーズに対応した新しい技術を開発し、事業をグローバルに成長させ、社会に貢献していく、そんな企業グループであり続けたいと考えております。

日新電機技報では、今後とも日新電機グループの最新のアクティビティをご紹介し続けて参ります。
私たちは、技術開発も事業展開もステークホルダーである皆様方のご意見やご要望を真摯に受け止める中でしか為し得ないものであると確信しております。皆様方から忌憚のないご批判、ご意見を頂戴できれば幸いです。

これからも日新電機グループへのご支援とご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。